

論文内容の要旨

報告番号		氏名	福岡 晃平
A combination of subcuticular sutures and subcutaneous closed-suction drainage reduces the risk of incisional surgical site infection in loop ileostomy closure (和訳) 皮下埋没縫合および皮下閉鎖式陰圧ドレーン挿入による、回腸人工肛門閉鎖術後創部感染の減少効果について			

論文内容の要旨

【背景・目的】 ループ式回腸人工肛門閉鎖術において術後創部感染症(Surgical site infection SSI)は比較的頻度の多い合併症であり、様々な方法で予防策が講じられている。しかし、依然として、どの方法が良いのか結論は出していない。当科で導入している皮下埋没縫合と皮下閉鎖式陰圧ドレナージを組み合わせた創傷閉鎖法の有効性を評価することで、ループ式回腸人工肛門閉鎖術における創部感染予防策について検討する。

【方法】 2004年から2018年の間に奈良県立医科大学付属病院でループ式回腸人工肛門閉鎖術を受けた合計178人の患者を遡って評価した。上記患者を2004年から2009年までのConventional skin closure group(CC group)である75名と、2010年以降に皮下埋没縫合と皮下閉鎖式陰圧ドレナージを導入した後のSS closure group(SS group)の103名の2つのグループに分けた。術後創部感染症の発生率を2つのグループ間で比較し、SSIに関連するリスクを単変量解析と多変量解析で調べた。

【結果】 SSIはCC groupで7例(9.3%)に発生したが、SS groupでは1例(0.9%)のみにしか発生せず大幅に減少していた($p = 0.034$)。単変量解析では、ヘモグロビン値、血清クレアチニン値、およびSS groupがSSIの発生に関連していた。多変量解析によると、SS groupはSSIの唯一の独立した予防因子として抽出された(ハザード比= 0.24、 $p = 0.011$)。

【結論】 吸収糸による皮下埋没縫合と皮下閉鎖式陰圧ドレナージの組み合わせは、ループ式回腸人工肛門閉鎖術におけるSSI発生を予防する効果がある可能性が示唆された。